



がん患者さんやご家族の皆様が病気や暮らしなど気になること、 相談したいことなど、お話ができる場です。



今回のテーマ

## 「医療者とのコミュニケーションの方法」

~医師や看護師へ自分のことを上手に伝えるために~

記:医療社会事業専門員 岡田 瑞歩 講師:がん看護専門看護師



上田 佳卒 先生

『みなさんはアドバンス・ケア・プランニングという 言葉を知っていますか?』という問いかけでスタートした 今回のサロン。

アドバンス・ケア・プランニング(以下 ACP)とは、これからの治療・療養について患者さんやご家族の方と医療従事者があらかじめ話し合うプロセスのことです。ACPは、患者さんやご家族がこれからのことを考えるきっかけを持ち、整理できるようになること、気がかりや希望・治療の認識を医療従事者と共有し、これからの方向性を共通認識できるようになることを目的としています。

が ん治療においても、自分の考えや希望、病気や治療について医療従事者と共通認識を持っておくことは、病気とうまく付き合っていくための方法の一つと言えます。

「付」えば「旅行に行きたいけど行っても良いだろうか」 「仕事を続けたいけどできるだろうか」など、治療中には 様々な気になることややりたいことがあるのではないで しょうか?

また、「先生に聞きたいことがあるけどこんなことを聞いても良いのかな」「先生の話の中でよく分からないことが

あったけど詳しく聞けなかった」など、医師とのコミュニケーションに悩む方もいらっしゃるかもしれません。それらを一人で悩まずに、ぜひ医療従事者に相談してほしいと上田看護師は話していました。外来の看護師はもちろんですが、それ以外にも当院には『がん相談支援センター』という相談窓口があります。そこではがん相談についての研修を受けた相談員や看護師がお話を伺っています。一般的ながん治療に関する情報提供や、お話を伺う中で必要時には主治医と情報共有していくこともあります。

え になることや不安なことがあればいつでもご相談ください。がんと一人で向き合うのではなく、医療従事者と一緒に向き合っていきましょう。



